羽曳野市
児童養護施設にクリスマスプレゼント

令和2年12月18日(金)、国連世界平和協会・奥健一郎人権大使の萩原国博補佐官とステラ・コーポレート株式会社伊野達亮代表取締役は、黒川実羽曳野市議会議員とともに同市に所在する児童養護施設二ヶ所を訪問し、クリスマスプレゼントを寄贈した。

社会福祉法人　大阪福祉事業団　児童養護施設　高鷲学園（羽曳野市南恵我之荘2－6－20）には、任天堂スイッチ2セットとみんなで遊べる人気ソフト2つ、附属品、保護シートなどを寄贈。本来は、勉強にも繋がるような教材などがふさわしいのではないかと国連人権大使の奥氏の意見も踏まえて何が一番子どもたちの為になるかと考えていたが、この施設には100人もの子どもたちが暮らしており、運動場が現在工事中の為、外で遊べないこと、ならびに、コロナにより施設内で過ごす時間がどうしても多くなるので、精神的なストレスがかなり溜まっている様子だった。

現在施設には同ゲーム機器が2つしかなく、年少の子どもたちしか遊ぶ事ができないという現状をかんがみて、追加で2セットを寄贈。施設予算などではこのような機器を購入する事が難しいため困っていたという。

また、社会福祉法人　児童養護施設　羽曳野荘（羽曳野市学園前1－1－3）には、子どもたちにクリスマスのお菓子の詰め合わせ36個を寄贈。約50センチもの大きな靴下の中にお菓子がたくさん入っており、施設の子どもたちにとってインパクトの大きいものを選んだようだ。

この施設には地元の有名企業から毎年シーズン毎にチキンや食べ物などの寄付を頂いているようだが、施設の子どもたち1人1人全員に向けて、大きなクリスマスプレゼントが行きわたるように発注したとのこと。

寄贈した萩原補佐官は「コロナがまん延する中で、色々な事情をもつ子どもたちが、いつも以上に窮屈な生活を強いられている状況で、こうした寄付が子どもたちだけでなく、職員さんにとってのやる気にも繋がり、子どもの生活環境改善や精神的ケアに繋がって欲しい」と話し、それぞれの施設長は「大きなお菓子と言う社会貢献も一度是非考えて頂きたい。また、地元の多くの方々の協力により社会全体でこうした施設を応援するといった世の中になってくれたらと願っている」と今後の抱負を語った。

左から高鷲学園小山道彰施設長、萩原国博補佐官、黒川実議員、伊野達亮代表取締役

高鷲学園に寄贈されたみんなで遊べる人気ゲーム

手前から黒川実議員、羽曳野荘　中條薫理事長、萩原国博補佐官、伊野達亮代表取締役

大阪府立中央図書館
立体切紙 キリッタイの世界展

1月5日（火）より大阪府立中央図書館（東大阪市荒本北1）1階のエントランスホールでは、立体切紙作家・大東守氏による「立体切紙　キリッタイの世界展」が開催され話題となっている。

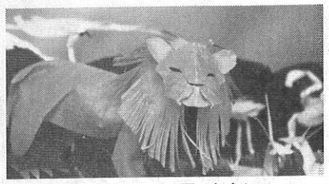
一枚の紙から生まれる生き物たち

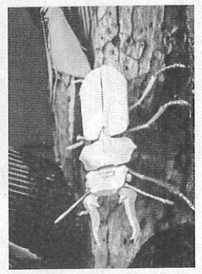
会場には「サバンナの生き物たち」「海に棲む生き物たち」「想像上の生き物」「昆虫の世界」と題されたジオラマを中心に身近な昆虫から恐竜までさまざまな生き物たちが展示されている。

生き物たちは全て1枚の紙から出来ており、展示場横のベンチでは、作者の大東さんがその日もまた新しい生き物を創作していた。一枚の洋紙が鋏で切り抜かれてゆく。紙はやがて二つに別れ、指先で綿密に折られてゆく。太く筋肉質な四肢、風になびくたてがみ、精悍な顔立ちがリアルに再現され、作者の手から放たれたのは百獣の王・ライオン。

恐竜たちの死闘

サバンナをゆくキリンの群れ


百獣の王・ライオン


キンオニクワガタ

大東さんはモノづくりの町・東大阪に生まれ、粘土細工やプラモデルを趣味として育ち、水道局に就職した。あたえられた仕事に真面目に取り組んで来た大東さんだったが、心身の変調がもとで早期退職に至った。

「第二の人生」について考えていた時、以前親戚の子供のリクエストで切紙でお面を作り喜ばれたことを思い出した。妻のさえ子さんの支えもあって2008年11月に自宅を改装し「手作りの店」をはじめ、「切りたい」「切る立体」から「Kirittai（キリッタイ）」というブランドが誕生した。各地の手作り市への出店や、博物館などでの出展が話題を呼び、読売テレビ「おおさかほんわかテレビ」関西テレビ「よーいどん」となりの人間国宝さん」テレビ朝日「人生の楽園」ほか多くのメディアに登場。東大阪市今米のギャラリーには全国から訪問客が絶えず、YouTubeにアップした動画は世界中で60万回以上再生されている。

TVでも紹介された“キリッタイ”が初めて本になりました!
動物、恐竜、昆虫、切って折ればあとは自由!
迫力あるジオラマと豊富な作例。
すぐ始められる15種、19キットを収録!
日貿出版社より好評発売中！ 2420円（税込）

会場では2014年に日貿出版社から発刊した「立体切紙　キリッタイ」や20種類のキットの販売も行っている（1種500円）。大東さんは「作ってみてダメだった箇所をこつこつとやり直せば誰にでも出来る。今回は図書館のエントランスなので、子どもからお年寄りまで是非興味を持って見てもらい、おうちでチャレンジしていただきたい」と語る。この展示は1月21日（木）まで開催（9時～19時※土日祝日は17時まで）。月曜（祝日の場合は翌日）は休館。

連載

19 往生院と少

往生院へと続く勾配を車は登ってゆく。ハンドルを握るのは、事業家として多忙な中、弊社（河内新聞社）で参与を務めてくださる谷敏克氏。谷氏にはさらにボウリングとトンボ研究という二つのライフワークがあり、今回の目的地である往生院六萬寺との縁もトンボだった。

平成23年6月、六萬寺近くの池で初めて昆虫採集をしていた谷氏の目の前を滑空したのは、専門家の谷氏でも滅多に視ることのない稀少種「ネアカヨシヤンマ」だった。夢中で捕虫網を振り回しているうちに往生院の敷地内に入ってしまい、そこで川口哲秀住職夫妻と邂逅。「怒られるのでは」と冷や汗をかいていた谷氏を夫妻は「いいですよ！どうぞ、どうぞ」と境内に招じ入れた。以来家族ぐるみの付き合いだという。

岩瀧山往生院六萬寺は、大

近畿大学
医療現場における